

『7月初めまでは、胴木バヤむしり取り強化期間・適正着果強化期間』

- ① 梯子の作業が多くなりました。農作業中の事故などには十分注意をしましょう。
- ② サビ果や変形果が目立ってきました。また、品種や園地により中心果の欠落やカラマツが散見されます。弱小芽が多いことや、開花前の低温障害、開花期間中の不順天候などが原因と考えられます。摘果では見極めに時間がかかることと思いますが、良品安定生産のためにも新梢停止期(7月上旬ころ)まで適正着果となるよう計画的に摘果を行いましょう。
- ③ 園地によってはナミハダニの発生が見られてきました。  
胴木のバヤにナミハダニがいますので、ダニ剤を散布する前までに胴木バヤをむしり取りましょう。
- ④ 散布ムラの無いようにゆっくり丁寧に散布し、スプレーヤーの事故などには十分注意してください。
- ⑤ 有袋によりツル割れの減少、着色の向上、災害リスクの低減などにより商品化率が向上しますので積極的に有袋栽培に取り組みましょう。

りんごの肥大状況

6月11日現在の管内の肥大状況は、カラマツなどの影響によりばらつきが多く見られますが、平均すると前年より大きい状況です。成らせすぎや摘果遅れなどで収穫時期に小玉果となりますので適期に適正着果となるよう努めてください。

令和3年6月11日現在 (cm)

	つがる		ジョナ		王林		ふじ	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
森山	3.2	2.8	3.5	3.0	3.0	2.6	2.7	2.1
駒木	2.8	2.3	2.5	2.3	2.6	2.3	2.2	2.0
古懸	2.7	2.5	2.7	2.3	2.6	2.6	2.4	2.0
りんご研究所	3.4	3.3	-	-	-	-	3.2	2.9
	平年 2.9		-		-		平年 2.6	

旬	温度	リンゴハダニ 生育期間	ナミハダニ 生育期間	新梢期間 (ふ化するまで)	産卵数
6月上旬	16℃	30日	35日	約10日	リンゴハダニ 産卵数 40個
下旬	18℃	23日	22日		
7月上旬	20~22	15~18日	13~16日	約5日	ナミハダニ 産卵数 150個
下旬	24~26	12~13日	9~10日		
真夏日	28℃	11日	8日	早い	

支柱入れ及び徒長枝整理

受光状態・枝折れの防止、また風通しや薬剤の通りを良くするためにも支柱を入れ、枝つりも随時行いましょう。  
また、胴木バヤにダニや害虫が増殖中です。  
7月の殺ダニ剤散布前までに胴木バヤをむしり取りましょう。

摘果作業：サビ果が目立ちますのでよく観察しましょう。

りんご1果あたりに必要な葉の枚数は50枚程度です。多く成らせすぎると、1果実あたりの葉の枚数が不足し、  
①肥大 ②食味 ③着色 ④次年度の花芽などへ大きく影響します。  
仕上げ摘果が遅れないよう、また最終的に成らせすぎないように注意しましょう。

摘果の強度と花芽形成及び果実品質(りんご試:ふじ)

摘果の強度	次年度の花芽率 (%)	収量/100頂芽 (kg)	果重 (g)	糖度 (%)	着色良品果率 (%)
3頂芽に1果	41	7.8	251	14.3	45
4頂芽に1果	55	7.4	285	14.5	51
5頂芽に1果	55	6	278	14.8	55

薬剤散布

ナミハダニの発生が早まっています。夏場の高温下では一気に増殖しますので散布ムラの無いように散布しましょう。また、早くからナミハダニが多発しているところでは早めに営農係までご相談ください。

回数 散布量	散布時期	参考日	対象病害虫	基準薬剤					防除の要点
				薬剤名と混用順序	倍数	1,000ℓ当	収穫前日数	使用回数	
8 500ℓ	落花40日後 (6月下旬)	6/20 ~24頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、褐斑病 黒点病、腐らん病、炭そ病 ハダニ類、モモンクイガ キンモン、キンモン	無ボルドー方式					●有袋果のすす病対策 薬剤散布後5日以内に袋かけを行なう。薬剤散布後5日以上経過した場合や、降雨が続いた場合は実洗いを行ってから袋かけを行う。
				展着剤 オキシンドーWSB モスピラン顆粒水溶剤 カルマツチ	1,200 4,000 770	835g×1 250g×1 1.3kg×1	14日前 前日 -	4回 3回 -	
9 500ℓ	7月初め (7月上旬)	7/1 ~5頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病 炭そ病、褐斑病、ハダニ類 モモンクイガ、キンモン キンモン、シャクリムシ	展着剤 オキシンドーWSB アーデントF エコマイト顆粒水和剤 カルマツチ	1,200 2,000 2,000 770	835g×1 250ml×2 250g×2 1.3kg×1	14日前 前日 7日前 -	4回 3回 1回 -	●ボルドー散布の目安 ①毛振期以降 ②横径25mm以上 ③6月20日以降 ④落花25日以降 ●アブラムシ対策 アブラムシ防除剤が入らない時期にアブラムシが発生した場合はウララDF 4,000倍・コルト顆粒6,000倍・トランスフォームF4,000倍も使用する。ただし、コルト顆粒・トランスフォームFはマメコバチに影響があるため落花10日後まで使用しない。
				展着剤 オキシンドーWSB フェニックスF	1,200 4,000	835g×1 250ml×1	14日前 前日	4回 2回	
10 500ℓ	7月半ば (7月中旬)	7/14 ~18頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、腐らん病 炭そ病、褐斑病、ハダニ類 モモンクイガ、リンゴコカクモン キンモン、キンモン	展着剤 オキシンドーWSB フェニックスF	1,200 4,000	835g×1 250ml×1	14日前 前日	4回 2回	●炭そ病対策 園地の近くにニセアカシアやクルミ類がある場合は伝染源となるので伐採する。また、被害果は見つけ次第、土中に埋めるなどして処分する。
				展着剤 ダイパワー水和剤 ダントツ水溶剤	1,000 4,000	1kg×1 250g×1	前日 前日	3回 3回	
11 500ℓ	7月末 (7月下旬)	7/28 8/1頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、腐らん病 炭そ病、褐斑病、ハダニ類 モモンクイガ、リンゴコカクモン キンモン、キンモン	展着剤 ダイパワー水和剤 ダントツ水溶剤	1,000 4,000	1kg×1 250g×1	前日 前日	3回 3回	●炭そ病対策 園地の近くにニセアカシアやクルミ類がある場合は伝染源となるので伐採する。また、被害果は見つけ次第、土中に埋めるなどして処分する。
				展着剤 イカズチWDG コロマイト乳剤 アリエッティC水和剤	1,500 1,000 800	333g×2 500ml×2 1.25kg×1	前日 前日 前日	2回 1回 3回	
12 500ℓ	8月半ば (8月上中旬)	8/11 ~8/15頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、炭そ病 褐斑病、ハダニ類、キンモン モモンクイガ	展着剤 イカズチWDG コロマイト乳剤 アリエッティC水和剤	1,500 1,000 800	333g×2 500ml×2 1.25kg×1	前日 前日 前日	2回 1回 3回	●褐斑病対策 前年発生した圃場や、多雨条件下などで発生が懸念される圃場では、7月中下旬にトップジンM水和剤1,500倍も使用する。
				アリエッティCは最後に調合する。					

有袋栽培について

メリット：①つる割れ軽減、着色向上、サビ果・果点荒れ・すり傷の減少 = 良品・商品化率向上！  
②無袋果に比べ収穫時期が早まり、収穫時期の強風前に収穫できる場合があります。

袋掛け前の薬剤散布：すす斑すす点病に感染しないよう、袋掛けは薬剤散布から5日以内に袋を  
かけましょう。  
薬剤散布から5日以上経過した場合は、チオノックFなどで実洗いを行ってから  
袋をかけましょう。(但し、降雨量が多い場合は、薬剤散布後5日以内に関わらず実洗いを行う。)

令和3年7月21日(水)まで  
令和3年産りんご予約申込受付中です。  
1箱でも多くのご予約をお願い申し上げます。